

植物防疫所ホームページの更新

植物防疫所では、平成10年4月からホームページを開設し、植物検疫に関する情報を提供してきたが、その内容を一新し、平成13年10月1日から公開している。

新しいホームページでは、目的のページを簡単に探せるようサイトマップやサイト内検索機能を設けている。

内容も大幅に見直し、植物防疫所の紹介のほか、輸出入検疫手続の案内やそのQ & Aに加えて、関係法規や申請手続の様式をダウンロードできる。また、海外旅行や国内旅行時の注意事項などの紹介のほか、子供向けに絵や写真を使って植物検疫をやさしく解説する

「キッズ・コーナー」も設けている。

また、従来部内資料として毎年1冊に取りまとめている「植物検疫統計」を平成13年実績から

デジタル化し、一般の方でも自由に閲覧できるように準備を進めるとともに、より詳細な輸出入植物検査実績を、閲覧者が自ら検索できるデータベースの構築も検討中である。

この他、全国の植物防疫所の連絡先や所在地図、電子メールアドレスを掲載するとともに、植物防疫所に関するご意見・ご

感想を書き込めるコーナーも設けているので、ご利用の皆様の率直なご意見をお寄せ頂きたい。



植物防疫所ホームページアドレス <http://www.pps.go.jp>

海外のニュース ダイズアブラムシの分布拡大

ダイズアブラムシ *Aphis glycines* は体色が黄～黄緑色、黒色の角状管と淡色の尾片を有するアジア原産の小型のアブラムシで日本を始め、韓国、台湾、フィリピン、タイ、マレーシアなどに分布している。

しかし、近年、オーストラリア、アメリカ合衆国及びカナダでもその発生が確認され、分布範囲を急速に拡大している。本種は、その形態がワタアブラムシと非常に似ているため、これらの国では大発生して、初めてその存在が明らかになった。

オーストラリア東部のニューサウスウェールズ州やクイーンズランド州、アメリカ合衆国中部のウィスコンシン州、イリノイ州、ミシガン州、アイオワ州、オハイオ州などのダイズ栽培地域で被害が拡大し、カナダでは国内におけるダイズ収穫量の85%を占めるオンタリオ州全域でその被害を受けた。2001年には干ばつの影響もあり、被害は拡大した。

本種は主にダイズを夏寄主とし、新芽や若い葉を好んで食害する。被害が大きくなると植物は全体的に黄化し、やがて落葉する。また、*soybean mosaic virus* をはじめ様々なウイルスを媒介し、これらのウイルスによる植物体の萎縮や成長阻害も引き起こされる。

アブラムシ類は冬寄主の人為的な移動によっても伝搬されるが、本種もクロウメノキ属植物が冬寄主として知られており、総合的な対策が必要となっている。

(参考)

<http://www.maff.go.jp/soshiki/keizai/kokusai/kikaku/main.htm>

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045) 211-7155
発行人 森田健二
編集責任者 江口寛明
印刷所 内村印刷株式会社